

3LTBでJapan Beautyを 実現する

●古山登隆

医療法人社団喜美会 自由が丘クリニック理事長



わが国の美容医療の発展を牽引してきた古山登隆先生。現在ではヒアルロン酸製材やボツリヌストキシン製剤の注入療法など、「メスを用いない若返り治療」において、世界的なオピニオンリーダーとして国際的に活躍している。

本インタビューでは、日本人の美の定義と、その定義を今、国内外に示す意義について古山先生にお伺いした。



今、Japan Beautyを 打ち出す意味

古山先生が日本人の美について定義づけようとお考えになった背景を教えてください。

これまでの日本における美容医療は、欧米の美を目指していました。外科的治療はもちろん、ヒアルロン酸製材、ボツリヌストキシン製剤による注入療法、スレッドリフトなどすべての治療においてです。

そうってしまったのは、美容医療全般が欧米主導で発展してきたためです。さらに掘り下げて考えると、明治以降、そして戦後から現在に至るまで、あらゆる面で欧米に対して憧れを抱いてきた日本人が、欧米の美を無意識のうちにそのまま受け入れていたこともあるでしょう。

しかし、わが国の美容医療は次の段階に進みつつあると私は考えてい

ます。日本人と欧米人は異なる人種で、骨格も皮膚の質も違いますから、欧米と同じ方法で、同じかたちを目指すことにはそもそも無理があります。それに、欧米人の美しい顔とはまったく別のものとして、日本人の美しい顔が存在しますよね。だからこそ、今、日本独自の美の基準をきちんと打ち出し、それに近づけるための治療法を考案することが必要で、この数年でその動きがはじまったと感じています。

この動きを世界はどうとらえているのでしょうか。

2017年6月にストックホルムで開催されたBeauty Through Science Congressに招待され、アジアにおける美容の考え方、方向性などについて講演した際の反響は想像以上でした。欧米を含む世界中の美容にかかわる人たちが、アジアの美容に強

い興味を抱いているようです。この背景には、中国経済の成長に起因する美容医療市場の拡大があるでしょう。その影響で中国近辺の日本、韓国を含む地域全体の美容医療市場も、今後拡大していくと思います。消費の大きさから考えれば、日本より中国、とくに上海が目される可能性は高いと思いますが、国同士の前向きな競争が始まった今、これからの美容医療において日本が存在感を示し先手を打つためには、日本の美の概念を打ち出し、それを実現する治療法の考案を進める必要があるのです。

日本の美の基本的な考え方を教えてください。

日本には素材を大切にす文化があります。料理では素材の良さを引き立てて全体がきれいにまとまるように仕上げますね。美容医療も同様